

よく外に出かける。担任の先生と副担任の先生が、園児たちを連れていく。私も一緒についていく。先日も出かけた。その日は、朝から出張があった。園児たちが出発するのが、10時45分だった。それまでに、出張から戻ることができるだろうか。もし、間に合わなければ、園を出るとき、園児たちのあのワクワク感と少しの緊張感を、カメラにおさめることができなくなってしまう。それは困る。

会議は、長引くこともなく、無事に出発の時間には幼稚園に戻っていた。5歳児のクラスは、昨年度のうちから、よく出かけているため慣れている。一方、4歳児クラスにとっては、歩いて外に行くのは、さながら大冒険であろう。一つ上の5歳児たちが、手をつないで一緒に歩いてくれるのは、心強いに違いない。

この日は、大生信夫の里というところに行った。トマト農園である。毎年、お世話になっているとのことだった。幼稚園児のすごいところは、誰でも笑顔にしてしまうことである。歓迎していただいた。トマトをビニールハウスで栽培し、販売もしていた。近くのスーパーなどにも卸しているそうである。りっぱなトマトをいただいた。ビニールハウスの中も、見学させてもらった。園児たちにとっては、未知の世界であろう。やや緊張しながらも、目を輝かせながら、赤く色づいてきたトマトを見ていた。

家人に、トマト農園に行ってきたことを話した。すると、「そこって、〇〇先生のご実家でしょう」そうだったのか。道理で、何かずっと引っかかるものがあったわけだ。そういえば、以前、家人から話を聞いたことがあった。

〇〇先生は、家人も、そして私も、以前からお世話になっている方である。お父様が、この農園を始めて、弟さんが継いでいるらしい。この日は、ちょうど息子さんもいたらしかった。〇〇先生に、このような報告があったとのことである。「今日、笹谷幼稚園の子どもたちが来てくれた。カメラマンもついてきた。園長先生は、お留守番だったらしい」

園長先生は、私である。お留守番ではない。ついてきたカメラマンというのが私である。いつものことだが、どうも、園長先生には見えなかったらしい。あれだけ、熱心に写真を撮ってれば、仕方がないかもしれない。

家人の話が、ちゃんと頭に入っていれば、ご挨拶もできたらうに。今度行ったときには、お話をしよう。大生信夫の里のウェブページを見てみた。大生リコピントマトには、心が込められていることがよくわかった。

この日の笹谷幼稚園のブログには、トマト農園を訪れるところから、お昼にみんなでおいしいトマトをいただく様子まで、写真がアップされている。すべて、専属カメラマンが撮影したものである。これからも、カメラマンはどこにでもついていく。